



第6位「フェイク」(Donnie Brasco) (97・米)
 監督マイク・ニューウェル、主演アル・パチーノ、
 ジョニー・デップ
 2位にした「フェイク」も、マフィアの世界をリアルに描いたヘビー級の傑作だった。(垣井道弘)
 「フェイク」は、スターが演技派に脱皮した瞬間を見たようで感激。(金子裕子)



第7位「浮き雲」(Drifting Clouds) (96・フィンランド)
 監督アキ・カウリスマキ、主演カリ・ヴァーナネン、
 カティ・オウティネン
 いつも同じ顔(に見える)の役者たちから感情を引き出す、絶妙の“間”の演出。映像ですべてを語る、まさに映画的空間だ。(稲垣都々世)



第8位「コーリヤ愛のブラハ」(Kolya) (96・チェコ=英=仏)
 監督ヤン・スヴィエラーク、主演ズディニェク・ス
 ヴィエラーク、アンドレイ・ハリモン
 97年は「コーリヤ愛のブラハ」などイキのいい子役たちも印象に残っています。(鳥居 隆)
 子供の演技が光る。(福田千秋)



第9位「マーズ・アタック！」(Mars Attacks!) (96・米)
 監督ティム・バートン、主演ジャック・ニコルソン、
 グレン・クロース
 50年代SF映画のエッセンスをバカバカしくハメをはずした「マーズ・アタック！」は茶目っ気がすごく楽しかった。(日野康一)



第10位「太陽の少年」(陽光燦爛的日子/In the Heat of the Sun) (94・中=香港)
 監督チャン・ウェン、主演シア・ユイ、ニン・チン
 馴染みがあるようでどこか異質な中国文化を描いた「太陽の少年」は、アメリカ映画とはひと味違う、でも映画ならではの感動を与えてくれた。(竹内万理)

選出者のコメントから



第1位「シャイン」(Shine) (95・オーストラリア)
 監督スコット・ヒックス、主演ジェフリー・ラッシュ、
 ノア・テラー
 ジェフリー・ラッシュも、ピアノが自分で弾けたからあそこまで真に迫った演技ができたのだろう。(西森マリー)



第2位「イングリッシュ・ベイシエント」(The English Patient) (96・米)
 監督アンソニー・ミンゲラ、主演レフ・ワインズ、
 ジュリエット・ピノシュ
 初選出で大苦悩。1位「イングリッシュ・ベイシエント」はメロドラマの型を堪能。(新田隆男)



第3位「世界中がアイ・ラヴ・ユー」(Everyone Says I Love You) (96・米)
 監督ウッディー・アレン、主演ウッディー・アレン、
 ジュリア・ロバーツ
 久しぶりに映画を見てうきうきするような気分になった「世界中がアイ・ラヴ・ユー」はアレンの映画ファン気質まるだしの演出に乾杯！(福田千秋)



第4位「タイタニック」(Titanic) (97・米)
 監督ジェームズ・キャメロン、主演レオナルド・デ
 ィカプリオ、ケート・ウィンスレット
 沈没シーンすら飲み込んでしまうディカプリオ&ウィンスレットの恋が、どうしてあも感動を呼ぶか。大味なアクションしか撮ってないキャメロンのどこに、あんなデリカシーがあったか？(清藤秀人)



第5位「奇跡の海」(Breaking the Waves) (96・デンマーク)
 監督ラース・フォン・トリアー、主演エミリー・ワ
 トスン、ステラン・スカースグールド
 「奇跡の海」の衝撃は、96年のカンヌ映画祭から続いており、時がたつにつれてますます重く心にのしかかってくる。(土屋好生)